

ヤマトマダラバッタ

Epacromius japonicus (Shiraki)

バッタ目バッタ科

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

国カテゴリー なし

選定理由

自然環境に恵まれた海浜の指標種として重要であるが、土木工事によって生息地が激減している。石川県においても生息地、個体数ともに少なくなりつつある。

形態

体長は30mm前後である。体色は淡褐色で、褐色の斑点を散布しているが、まれに緑色型も現れる。後翅の基部は淡い青色をしているのが特徴である。

国内分布

北海道、本州、四国、九州の海岸地帯に分布する。

県内分布

加賀市、小松市、内灘町、宝達志水町、珠洲市などの海岸部に分布していて、生息地によっては個体数が多い所もある。

生態

砂浜海岸に限って生息する。卵越冬で、成虫は8月から10月にわたって見られる。地上性で、日中、砂上を活発に飛びまわっているが、体色が砂地とまぎわらしく、見つけにくい。

生息地の条件

海浜植物のある広い砂浜海岸が存在することが重要である。

生存の危機

砂浜海岸は、護岸工事や土地造成の影響を受け、海浜植物帯が消滅あるいは狭小化している所が多く、本種は減少している。また、砂浜への車の乗り入れや海岸浸食も本種の生息を脅かしている。海浜植物帯の保全に配慮した護岸工事を実施すべきである。(A)

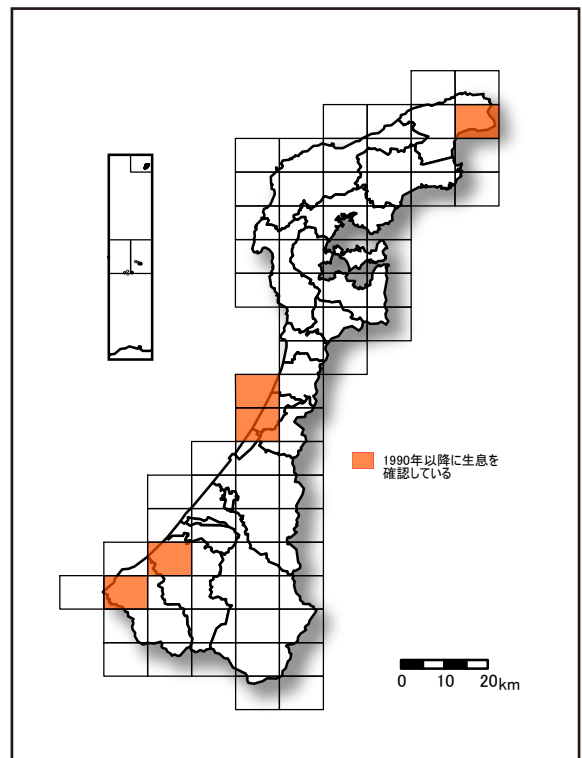
参考文献

徳本 洋 1998. バッタ目. 石川県の昆虫: 62-67. 石川県自然保護課.

市川顕彦ほか 2006. バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑. 687pp. 日本直翅学会編. 北海道大学出版会. 札幌.



写真提供者: 富沢章



県内の分布